

丹波古文書倶楽部会報
古文書かわら版

第11号

事務連絡（高礼場）

☆ 六月例会（会場変更）注意！

日時 6月10日（土）

午前十時

会場 春日住民センター

会場準備（敬称略）

岸孝明、佐中ますみ、

荻野雄一郎、荻野節子

☆ 七月例会

日時 7月8日（土）

午前十時

会場 柏原住民センター

会場準備（敬称略）

一色初代、小西敏晴、足立幸子、

☆ 29年度会費の納入について

本年度分会費が未納の方は、会計担当の小西さんまで、早めにお願ひします。

☆ 本年度のフィールドワーク

（FW）は、10月14日（土）午後13時南町方面で実施する予定です。

実行委員（若干名）として協力できる方は、小西さんまでお申し出ください。

発行・編集者 延陽伯こと岸孝明
発行所 丹波古文書倶楽部
連絡先 090-8888-15151
E-mail: 15151@denpaclub.com

◆ 丹波古文書倶楽部代表

退任に当たって 川口利和

このたび、岸代表から退任挨拶文提出の依頼がありました。吾輩としてはさりげなく退きかけたのですが、3月総会時にご挨拶できなかつた会員の方もおられることで区切りとしては必要かなとの思いで投稿させていただきましたこといたしました。

2011年4月の倶楽部発足から6年間に亘り、くずし字がすらすらと読めるわけでもなく、丹波地域の歴史が詳しいものでもなく、にも拘らず、代表を務めさせていただけたのは木村講師、役員・会員各位の強力な支えがあつたことと以外の理由は見つかりません。厚く感謝申し上げます。

この間には木村講師・役員・会員各位のご協力、役員各位の意欲的な企画・実施の下、フィールドワーク（現地学習）、昼食会、忘年会または新年会、茶話会、会報（かわら版）の開催・発行という講座以外の事業を実施することができました。そのことで会員間の理解つなかりが深まったのではないかと思っております。また、会員におかれてはこの倶楽部へ入会しな

ければ出会うことはないであろう方との出会いがあつたのではないのでしょうか。

今後とも古文書学習と合わせて、会員とのご縁が有意義なものと発展するよう祈念いたします。

2017年4月から新役員体制での倶楽部運営が始まりました。各役員は当然ながら丹波古文書倶楽部専従ではありませんし、多面でご活躍されておられる方々であることで、会員各位のご協力、ご支援なくして、倶楽部運営は困難かと思っております。

会員各位におかれては岸代表、矢持副代表、小西会計、細見監事への絶大なる下支えを衷心よりお願いいたします。



私事で恐縮ですが、4月から休会させていただいております。どこかのマーケット等で会員各位のお出合いがあるかもしれません。その際はお声かけさせていただきますのでお気軽にお話させていただきます。5月は芍薬の季節であります。素朴に花を愛でることのできる心の遊びを保ち続けたいのであります。写真提供 川口様より

※ 川口様へ

会の発足以来、6年にわたり代表を務められ、私たちのためにご尽力いただいた事に、僭越ながら会員を代表し、紙面を借りて改めとお礼申し上げます。

役員は退任するが、退会ではなく、休会だよ、形式ばった挨拶文は抜きで：と言われておりましたが、無理にお願いして寄稿いただきました。

また、丹波古文書倶楽部発足以来の記録については、発足の経緯や取組内容等、会の足跡を取りまとめた文書がありません。

そこで、お忙しい事は承知の上で、是非、忙中の閑を利用して、取りまとめ戴いて、古文書かわら版に寄稿していただくよう、無理なお願いもしております。

岸 追記

自己紹介(口よ)

春日町 濟木 茂明様

先輩に誘われて

丹波市の古文書倶楽部が會員の募集をしてるんやけど入会して一緒に勉強してみないか」と誘われて軽い気持ちで入会したのが平成23年度、日記を見ると5月14日(土)に初めて参加している。

木村先生にこれから勉強を続けるためには「まずし字用例辞典」を購入しなさいと薦められた。

あの日から、はや6年の歳月が経つ。

当初は資料を読み解く手がかりも分らず、会場に行つていれば教えていただけるものと軽い気持ちで参加していた。そんな甘い考えは見事に打ち壊された。「JJJJは予習して参加してね」

先生の厳しい言葉におろおろするばかりだった。名簿の順に指名をされるので、次回順番が回つて来そうなきには、先輩をお願いして事前に一緒に勉強させてもらった。読めない文字を書き出して簡単な辞書も作った。

少しづつではあるが資料を読み解けて、当時の生活の様子が分ったときの喜びも感じられるようになってきた。

この4月から7年目になる。認知症にならない為にも、もう少し頑張ってみようと思っている。木村先生よろしくお願ひします。

氷上町 荻野 雄一郎様

日本語に悪戦苦闘

丹波古文書倶楽部が発足して間もなくからの會員ですが、不勉強も崇つて一向に上達しません。情けない事です。

妻も會員ですが、私より遥かに熱心で、どんどん上達し、今や私の家庭教師のような存在となつています。

私たちは地元本郷でも「古文書を読む会」に属し、5人の仲間と共に、熱心な元小学校の校長先生を講師に勉強していますが、最近、思いがけない事実を知ることになりました。

荻野家は私で14代になります。が、170年前の弘化3年(1846)、第9代の半左衛門なる先祖が、庄屋として隣村との川に係る争いごとを収めようと尽力する様を記した古文書が見つかったのです。

父も私も、2期2年、自治会長を務めました。先祖も村のために尽くしていたのだ、と感慨無量のものがありません。

私は又、熟年者の趣味を介する集まりである「永上寿学級」の20あるクラブのうち、短歌クラブと

俳句クラブに属し、月に一度、同好の士とお互いの作品を合評し合っています。下手の横好きですが、2時間半があつたという間です。

短歌 薬指と小指のことを小2の孫(ニ)フアとソの指と真顔で言えり」と、俳句 冬耕や蛙起こしてしまいけり」が、元日の丹波新聞文芸欄に掲載され、心のお年玉をもらつたよつてました。

短歌は俵万智さん、俳句では細見綾子さんの作品に興味があり、大いに影響を受けています。脳トしにいいと言われる短歌や俳句、継続は力なり」を信じ、古文書共々続けたいと思つています。



編集後記(金棒引き)

日本史教科書の記述内容が、最近の研究成果を受けて、30年前に習った内容とは、様々な点で大きく変わつて来ています。

例えば、踏絵」といふ言葉は、江戸幕府が「切支丹」信者を発見するために使つた「マコソ」(イエスキリスト)や聖母マリアの聖像(も、それを踏ます行為も共に踏絵と説明してました。その言葉が一般化してある事柄への該当者や反対者を煽り出すために用いる道具や、その手段を含んで「踏絵を踏ませる」と呼び慣らわつています。

新しい教科書では、「マコソを踏絵」と踏ます行為を「踏踏」と厳密に使い分けています。今後は、大阪府教委は国歌斉唱を絵踏みに使つな」などとなるの？

また、江戸幕府の外交政策を「鎖国」と表現していましたが、外交貿易の統制はあつたが、窓口は開いていたので「鎖国」とは言えない、とが、慶安の御触書」は、明治に編集した徳川禁令考で誤つて幕府の法令と記されたもので、実際は、元禄10(1697)年に甲府藩領で発布された農民教諭書を領民に言い聞かす際に、幕府の法令である、と言ひ伝えられたものを前書が鵜呑みにしたものとされています。

今、もう一度読む山川日本史』等の読み直し教科書ブームです。昔の日本史教科書の記述と現在の新しい学説の比較などを8月の茶話会で話題にするのも面白いのではないか、と思つています。

(文責 岸 孝明)